地域おこし協力隊 奮闘記 Vol.29

広がる！大山アニメーション

私が大山に来るきっかけとなった大山アニメーションプロジェクト。いつか自分も手がけてみたいと思っていたこの企画を、この秋、「のまど間」を拠点に行うことになりました。今回はそんな大山アニメーションプロジェクトについてお話しします。

そもそも

大山アニメーションプロジェクトは、2013年から始まって今年で4年目を迎えます。

▲松本さんのワークショップの様子

アーティスト・イン・レジデンスは、アーティストが国境や文化の違いを越え、異なる文化や歴史の中での暮らしや、現地の人々との交流を通して受けた、刺激やアイデア、インスピレーションから作品を作るものです。

大山町ではアーティストが滞在してアニメーションを作っています。この3年間、国内はもとより、海外からもアーティストが大山町を訪れ、滞在し、それぞれに感じたものを作品にして発表しました。

きっかけ

私が初めて大山町に来た日、偶然にもアニメーションの上映会がまぶやで開催されていました。その時見た、大人も子どももみんな楽しそうにアニメーションを見ている姿、運営している人たちが生き生きとしている姿に惚れ込み、この町で何かしたい！と心を突き動かされて大山町への移住を決意しました。

地域おこし協力隊となってからも、自分の活動に加えて、このプロジェクトのお手伝いをするようになりました。老若男女が楽しめるアニメーション、そして、アーティストと地域の人が一緒に作品を作り上げる一体感に感動しました。プロジェクトのお手伝いをしているうちに、私の拠点「のまど間」のある名和エリアで、このプロジェクトをやりたいと思うようになりました。

ついに始動！

名和エリアの招聘アーティストは東京在住の松本力さん。まずは、松本さんに大山町を知ってもらうため9月6日から17日の間、のまど間（門前）に滞在しながら、町内のいろいろな場所に出かけ、人にも出会っていただきました。

また、松本さんを知ってもらうため、ワークショップを9月17日に旧名和保育所で行いました。ワークショップでは、目の前でポーズした人の絵を参加者みんなで何枚も描き、絵と絵をつなげて原画を作る作業をひたすらがんばりました。描く絵の想像を超える多さに、作家さんの凄さを思い知らされました。最後は松本さん自作の映像装置「絵巻物マシーン」を使いアニメーションは完成！

そこへ、松本さんと一緒に活動している音楽家のVOQ（ボック）さんが加わり、ワークショップ中に録音した音や声などを使った音楽をこの作品につけてくれました。

そして出来上がった作品を上映会で鑑賞。自分の描いた絵が登場すると「わたしの絵が動いた!!」とみなさん大喜びでした。上映会でのみなさんの様子は、10月からのプロジェクトへの大きな弾みとなりました。

松本さんは10月に、アニメーション制作のため再び大山町を訪れます。

滞在期間中には制作の様子を自由に見ることができるオープンスタジオを開催しますので、のまど間にぜひ、お立ち寄りください。